



令和3（2021）年度 第12期 とちぎの教育未来塾

第5日〔令和4（2022）年1月15日（土）〕

第12期生 135名



講 話

★「教師を描こう」

栃木県総合教育センター研修部副主幹 塩野 友佳

第12期「とちぎの教育未来塾」4日間の学びを振り返りながら、「目指す教師像」の実現に向けてマングラチャートを作成しました。



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆自分の目指す教師像は何であるのか、どんな教師として子どもたちの前に立つか、改めて考える時間になりました。教師はどんな時にも「学び」が必要な職業であるため、このような研修の場でのインプットだけでなく、誰かに話したり、もう一回まとめ直したり、実践したりして、新たな学びを得ていきたいと思います。
- ◆教師は、子どもの成長を見られるのが嬉しい反面、そんな日ばかりではなく、困った日も悩む日もあるとのお話があり、少しホッとすることができました。苦難があるからこそ、それを乗り越えられた時、また子どもの成長が見られた時の喜びは大きいものになると感じました。

【学生等】

- ◆講話を通して、教師になってからのビジョンを具体的に整理することができました。教師になることがゴールではなく、教師になってからが本当のスタートであり、常に自分の信念を持ち、児童生徒や保護者の方々、教職員の方と関わることが大切だと感じました。マングラチャートは初めて取り組みましたが、改めて教師を目指す上で自分に必要なことが明確になりました。
- ◆第一日の教師像と今の教師像が異なっていて、この半年ほどの間で変化するものなのだと、自分に驚き、また教師としての仕事に対する捉え方が変わったことに感心してしまいました。目指す教師の実現に向けて、目標を細かく挙げていくことで、今、自分に必要な力や考え方がわかり、目指すものがそう遠いものではないのだと感ずることができました。

特別講話

★「とちぎの子どもたちののびしろをめいいっぱい伸ばしてあげませんか！」

栃木県教育委員会教育長 荒川 政利 先生

荒川政利栃木県教育長から、とちぎの魅力、とちぎの子どもたちや教育への熱い思いを、豊富なご経験をもとにお話いただきました。とちぎの教師としての使命、とちぎの教師を目指す決意をあらたにしました。



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆ 栃木を誇りに思えるように、子どもたちに故郷の良さや大切さを教えることの必要性を改めて感じました。今回の講話を忘れずに現場で生かしていこうと思いました。
- ◆ 子ども達の好奇心を引き出すのは、教師のちょっとした言葉かけや授業の工夫が大きく関わっていると感じました。自分自身のこだわりを持つこと、一方で、周りの意見を素直に聞き入れることも大切であり、子どもたちを育てる私自身も、常に学び続けることに加え、素直な気持ちでいることが必要だと感じました。

【学生等】

- ◆ 栃木県がどのような教師を求めており、どのような子どもたちを育成してほしいのかを理解することができました。私は幼少期に栃木県に住み、現在は他県に住んでいるので、生まれも育ちもずっと栃木県の方とは違う立場にいます。自分の経験を上手く活用しながら栃木県の「ふるさと教育」に関して子どもたちのためになるような教育を行っていきたいと思いました。
- ◆ 荒川教育長のお言葉から静かで熱い情熱を感じました。教育業界の外側を深く知る方が教育に対して何を思われるのかを知ることができ、貴重な経験になりました。教師になった時にも、笑顔と謙虚さの大切さを忘れずに子どもと接し、子どもにも笑顔と謙虚さの重要性を伝えられるようにになりたいと思いました。

閉講式

「語り合い 学び合い 高め合う」をキャッチフレーズとした第 12 期「とちぎの教育未来塾」が閉講式をもって修了しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、同時双方型オンラインによる開催や、十分な研究協議ができない場面もありましたが、今年度も学び多い5日間になりました。

受講者代表あいさつ



閉講あいさつ

